

## 令和7年度第2回岡崎市市民協働推進委員会会議録

### 1 開催及び閉会に関する事項

令和7年11月7日（金）13時30分～15時30分

### 2 開催場所

岡崎市役所福祉会館 202号室

### 3 出席委員及び欠席委員の氏名

#### (1) 出席委員（10名）

牛山 久仁彦 委員（明治大学政治経済学部教授）  
関谷 みのぶ 委員（名古屋経済大学人間生活科学部教育保育学科教授）  
長坂 秀志 委員（岡崎市総代会連絡協議会会長）  
太田 俊昭 委員（岡崎市社会福祉協議会会長）  
岩月 幹雄 委員（岡崎商工会議所専務理事）  
山田 美代子 委員（りぶらサポータークラブ副代表）  
野村 綾乃 委員（FMおかざき市政情報パーソナリティ）  
深田 賢之 委員（特定非営利活動法人 岡崎まち育てセンター・  
りた 事業推進マネージャー）  
稲垣 ちえみ 委員（公募委員）  
近藤 忠彦 委員（公募委員）

#### (2) 欠席委員（0名）

### 4 説明等のため出席した事務局職員等の職氏名

市民協働推進課：畔柳康弘（課長）、鈴木温子（副課長）、中村晋一（市民協働係長）、野田亜里子（市民協働係主事）

### 5 傍聴者等

0名

## 6 審議事項

### (1) 第4期岡崎市市民協働推進計画案について

事務局から資料について説明。また、本委員会において承認を受けた内容をもって、令和8年1月以降にパブリックコメントを行う予定であることを了承いただく。

<以下、各委員の意見等>

- 委員長 : 前回の委員会を受け素案が修正されたようだが、1つ大きなところで言うと、素案 p. 21 に記載がある第4期計画のスローガンの部分について、これまでも議論していただいているところではあるが、まずはこちらをどうするか、確認していきたい。事務局とも調整をし、「連携期」ということで提案させていただいているものの、他に御意見があれば伺いたいが、委員の皆様からいただいた意見としては「キョウソウ」が複数あった。「協創」「共創」の2通りの表記があるかと思うが、この概念を掲げている自治体を見ていると、“協働をある程度達成した次の段階”であるといった解釈されていることが多いようだが、何をもって協働を達成していると言えるかが曖昧といったところや、現在「協働」を掲げている自治体は劣っているのかと言われたら、決してそうではないというところがあり、概念的にまだこなれていないため、「〇〇期」の部分に当てはめるのはもう少し議論が進んでからでも良いのかと思う。他の意見としては、新型コロナウイルスによって市民活動や市民協働はダメージを受けて、停滞を余儀なくされた背景から「立て直す」や「強化する」などといったものや、「普遍期」という案もあった。普遍化するという意味では、これまでやってきたことを一般化して、皆で共有していこうという考え方が良いと思ったが、「普遍期」という単語に違和感を覚える。事務局ともやり取りをした中で、連携の強化と発展や、コロナ以降の状況を踏まえて、団体同士の連携や行政あるいは民間企業との連携など、「繋がる」ことによって今までやってきたことを維持していこうとするような意見や、情報発信や普遍化させていこうという意見もあったため、これらを含ませて「連携期」を挙げさせていただいた。
- とはいえ、あまり確信はないところであるので、意見があればいただきたい。
- 委員 : 岡崎市の市民協働は、面の部分と深さの部分について、皆さんの中ではどのような認識を持っているのか伺いたい。

- 事務局 : 市民活動については、団体数は増えていて、実際に 500 弱の団体が活動しているという点では、面的、数的な部分は充足してきたのではないかと考えている。深さを団体活動の公益性の高さや地域課題の解決との関連性と捉えるのであれば、個人的にはもう少し強化できたらいいと思う。
- 委員 : 委員長のお話にもあったとおり、新型コロナウイルスが各主体の連携に支障をきたしたと思いつつ、「育成期」「自立期」「発展期」と進めてきており、後退しているわけではないという状況の中で、各主体がお互いに協力し合うという意味を込めて「連帯期」を提案させていただいた。  
多数ある団体との連携をより一層進めていく事や、もう少し「発展期」の上が続いていく表現にする必要があることを考えた結果「連帯期」となったと想像するが、これに対して異論はない。  
また、スローガンの説明についても協調と情報発信が必要と思いい、その旨を提案したが、こちらについては、「普遍化」はそのとおりだと思う。
- 委員 : 計画上「育成期」「自立期」「発展期」と進めてきて、現状、団体数も増えているし、各団体が地域課題の解決などに対して興味をもって動いている印象を受けるが、それらが自立・継続していくことについてはまだ弱いのではないかという認識。  
活動を一人で行うことは難しく、同じ課題を持っている者や、他の課題を持っている者らが連携して行う必要があると思うが、本来であれば「発展期」で推進するはずだったところ、新型コロナウイルスによって様々な活動が停滞したことにより、うまく繋がらなかった印象。面は広がりつつあるし、点も太くはなっているとは思いますが、深さや立体的に見せていくための繋がりはまだ弱いのではないかと考えている。
- 委員 : 総代会も課題を多く抱えている。各町の総代も、かつてと比べて、やむを得ず引き受けている者が増えている印象。その結果、前例踏襲が続き、地域をよりよくするために工夫しようとする者が少なくなっている状態にあるのではないかとと思うし、心配している。  
ある地域では、かつて、妊婦や乳幼児がいる家庭を対象とした防災訓練や、外国人や国際交流センターとコラボレーションした防災訓練などをしていたところもある。テーマ型市民活動団体と連携して地域活動に取り組むことで、幅広い活動ができると思うし、外とのやり取りができていると聞く。

- そういう点で活動の深さが強まっていくと良いと思う。
- 委員長 : 受け取り方は様々だが、手放しで進んでいると思えるような印象ではないという認識のようだ。
- 委員 : 言葉の受け取り方の問題で、市民の立場から言うと、「普遍化」を理解するのが難しい。「情報発信と市民協働の普遍化」と言われると一気に協働が遠ざかるような気がする。
- 平たく言うと「情報発信と市民協働の定着」なのではないかという印象を受けるが、日頃協働に接することがない市民からしたらもう少し親しみやすい表現の方が良いかもしれない。
- 委員長 : 活動を行うかたはどのように思うか。
- 委員 : コロナ禍以前はみんなが連携しようとする意識があったと思うが、コロナ禍を経験して人との接触をできるだけ減らそうとするようになった。活動を復活させるという意味で、中間支援組織も活用しながら色々なところと繋がっていくことで、各団体の活動は深くなっていくし、市全体としても活発化できるのではないかと思う。そのような理由から、情報収集や提供することを拡大していくという意味の「連携期」はよいと思った。
- 委員 : p. 21 の記載によると、第 2 期は「連携の推進」、第 3 期は「連携の強化」と言っているが、ここでいう「多様な主体との連携」は、協働の言い換えであると思っている。連携の深さを第 2 期は推進、第 3 期は強化と表現していると思うが、この流れから言うと、「〇〇期」の部分に当たるのは、連携の状態を表す言葉ではなかろうか。これまで、状態の説明や手段として扱われてきた「連携」という言葉を、状態を表す言葉として掲げることに違和感を覚える。
- 各主体が連携して取り組むことで、単独で行うよりも付加価値が高い結果を生み出せるようになってきたことを表すために「共創」を提案させていただいた。「連携」という言葉も良いと思うが、「〇〇期」に入れるには違和感を覚える。
- 委員長 : 正直、「連携期」という言葉を入れさせていただいたものの、これまでの「育成期」から「発展期」との繋がりが良くないとは思っている。当初、事務局と打ち合わせしている際には、「連帯期」が良いのではないかと話をしてしたが、「連帯」という単語が特殊であることから、より馴染みのある「連携期」とした。しかし、確信をもって「連携期」がよいと思っているわけではない。
- 委員 : 単純に言葉を並べただけだと、発展の次は「成熟」などの単語かと思うが。

- 委員長 : しかし、コロナも挟み、「成熟」の域に達しているかと言われると疑問がある。
- 委員 : 「進化」「飛躍」「躍進」も浮かんだが、「発展」とあまり変化がないような気がするし、これまでとの繋がりが見られなかったので、協調するという意味を込めて「連帯」を提案したが、組合言葉としても使われる単語ではあるので市民協働推進計画とは性質が異なるかもしれない。
- 委員長 : 「連帯」にもいい意味はあるが、運動的なニュアンスが強いのもかもしれない。ただ、コロナで傷んだ状況を再建するようなことを表現したいが、実際に後退はしていないので、計画において、状況があまり良くなかったと読み取れるような言葉は相応しくないと思う。
- 委員 : 少しずつ発展してきており、団体数も増加している中で、次は、一つの連携をするのが一番だと思う。
- 委員 : 恐らく、5期、6期と続いていくことを想定すると、その先の言葉繋ぎをどうするかを考える必要があると思うが、私が思う教科書的な流れとしては、「発展」の次は「創造」ではないかと思う。「創造」だとその先の可能性も残すことができると思う。
- 委員長 : それも良いと思う。しかし、「創造期」としたときに計画の中身が伴っているかが疑問。どちらかと言うとコロナ禍を経て、立て直すようなイメージ。あるいは、定着してきた活動をもっと確実なものにするようなニュアンスが良いと思う。
- 委員 : スローガンの言葉として適しているかわからないが、立て直しという言葉がある中、「発展」に繋がる言葉ではなく、繰り返すような「再構築」といった「再」から始まる言葉は適さないのか。
- 委員長 : 言葉選びには注意しなくてはいけないとは思いますが、「再構築」はそのようなことはないと思う。事務局はいかがか。
- 事務局 : 事務局としても、「再構築」など、「再」から始まる単語を使用する案はあった。しかし、これまで「〇〇期」と三文字で統一されていた中、四文字になるとこれまでの流れとは異なると思って会議においては挙げなかった。考え方としては良いと思う。

- 委員 : 「構築期」とするのはいかがか。また、「展開」や「継続」、「浸透」も良いのではないかと思う。
- 委員 : 皆さんが注力したいのは、面と点とではどちらなのか。それによって選択する単語が異なってくると思う。また、表現としてはこれまでのものから段階が一步下がる言葉だとしても、実態を表す言葉の方がいいと思う。本当にやりたいことを表現した方が良いのでは。
- 委員長 : 恐らく、各々の考えはあると思うが、共通認識が何なのかは誰もわからないのではないかと思う、
- 事務局 : 事務局の認識としては、委員が言われたとおりだと思う。団体数は増えてきて、それぞれ活動が行われているが、深さについては、解釈は人によって異なるが、個々の活動だけでは弱い部分があると思うので、お互いに連携しあうことで地域課題の解決につながる活動を生んでいきたいという思いがある。個々でやっていた活動を多様な主体と協働することで新しい価値観が生まれ、その価値観が地域課題とリンクしたときに、困った人を助けることに繋がるような状況を広げていきたいという思いがある。そういった思いを汲んでいただいて、「連帯」という言葉を始めにご提案いただいたと思うが、少し強制的な印象を受けることから、もう少しマイルドな表現にした「連携」を次にご提案いただいたものと思う。
- 委員 : ということはつまり、各主体同士の連携、強化に重きを置いていきたいということかどうか。
- 事務局 : はい。個々の活動にとどまらず、広げていけると良いのではないかと思う。
- 委員 : 逆に第3期計画で「連携期」とすべきだったかもしれない。私も、「連携期」には若干の違和感を覚える。
- 委員 : 事務局の発言を受けて、主体と主体が連携するというより、色々な事業が繋がっていくような印象を受けたので、「連携期」よりも「つながり期」などの方が、意味が通じやすいのではないかと思う。
- 委員 : 横文字にはなるが、「ネットワーク期」はいかがか。無理に繋がるわけではなく、困った時にはいつでも繋がれるような関係性を表すことができるのではないかと思う。

- 委員長 : 先日、とある自治体で、外郭団体の在り方について、その評価をする会議に出席したが、外郭団体の人手も不足しているようだ。外郭団体側も、人事交流をするなどして、事業を民間に広げていくようなことを行ってみるも、結局人手不足でできない状況。そんな中、外郭団体の必要性はどんどん増えているが、例えば多文化共生に関する事業を行うと言っても、外郭団体だけではできないので、NPO や市民活動団体と連携していくなど、広がりを持って、行政経営していかないといけないと感じた。
- また、その自治体でも協働事業を実施しているが、その事業を次はどのように所管課と継続していけるかを検討しており、条例の改正も含めて普遍化できる流れを検討していくことが必要。
- しかし、これは日本中どの自治体にも必要なことだが、まだどこもできていないと思う。
- そういう点でこれからの行政経営を考えると、これは、市長、副市長がどう考えていくか、あるいは、企画部門等が岡崎市全体のこととして検討していくことであり、かなり先が長い話になる。
- そういった中で、第4期計画の時期をどう位置付けるかということころだが、今年度、岡崎市では協働事業を実施しておらず、また市民活動団体への補助金も出せていない中で、市民活動団体や市民の皆さんのネットワーク、総代会、民間企業など多様な主体が繋がりを持ってやっという雰囲気を出す言葉を入れるべきだと思う。
- 日本中で十分に達成できている自治体がない中、中核市である岡崎がどのようなイメージでいるのかという点で言うと、確かに印字すると「連携・連携・連携」と連続して記載されるので、並べて見るとあまり良くないかもしれない。
- 先ほど意見があった「つながり」や「ネットワーク」、「再構築」という意見もあったが、言葉としてどうか。
- 委員 : 一般的に「繋がる」という言葉は使うので、イメージの共有化はしやすいような気がする。また、漢字よりひらがなの方がその傾向にあるのではなかろうか。
- 委員 : 「つながり期」も良いと思うが、普遍化という意見もあったので、「再構築」も良いと思う。「つながり期」としてその説明として「情報発信と、市民協働の再構築」でもいいのではないかと思います。
- 委員長 : 「再構築期」とすると、現状が十分に構築できていないような印象も受けるので「つながり期」が良いかもしれない。

- 委員 : 普遍化を活かすとすると「確立期」など普遍的な言葉が良いかもしれない。
- 委員 : その考え方であれば「定着期」はいかがか。
- 委員 : 市民目線だと「普遍」という言葉は、難しく、距離を置きたくなる印象を持たれるかもしれない。
- 委員長 : 副題について、「普遍」ではなく、委員が言われた「市民協働の再構築」でどうか。  
また、「情報発信」の部分については、発信だけで良いか。
- 委員 : 「情報共有」とするのはいかがか。
- 委員長 : 期間は「つながり期」として、副題を「情報共有と市民協働の再構築」とするのはどうか。「再構築期」よりは「つながり期」の方が良いか。
- 委員 : 「つながり期」は、柔らかい印象があって良いと思う。
- 委員長 : 事務局はいかがか。
- 事務局 : わかりやすく、馴染みやすい印象があり、良いと思う。
- 委員長 : 副題との兼ね合いで言うと、「再構築」といっても今がダメなわけではなく、これからもう一度立て直すために繋がっていかうとするニュアンスであるので良いと思う。  
あとは、「つながり期」と聞いて市民がどういう期間がイメージしやすいかが危惧されるところだがいかがか。
- 委員 : 副題で補足されているので、理解していただけたらと思う。
- 委員長 : 期間を「つながり期」として副題を「情報共有・市民協働の再構築」だと少し長いかどうかと思われるか。第3期計画以前と関連を持たせるために「連携」を入れた方が良いか。  
「情報共有・連携と市民協働の再構築」だといかがか。  
ページレイアウトの調整は可能か。
- 事務局 : 可能。
- 委員長 : では、「つながり期」「情報共有・連携と市民協働の再構築」という計画のスローガンにしていこうということで良いか。
- 委員 : よい。
- 委員長 : では、次の議題に移る。第1回委員会での指摘事項の修正点について、御覧いただいていたかがか。  
1点、事務局に伺いたい。素案 p.3 の挿入図、関連する計画のうち「生涯学習推進計画」について強調されているのはなぜか。

- 事務局 : 挿入図上部、説明文の3段落目に記載があるとおり、「市民一人ひとりの学びを応援し、その学びを地域へ還元していただくことを目的」に、生涯学習推進計画との連携を図りながら進めて行くこととしている。岡崎市の考え方として、生涯学習という広い括りの中で、市民が学んで身に付けたことを社会課題の解決に結び付けていくことで市民協働に発展していくというイメージがある。また、経緯としては、第3期計画策定時点で、市民協働と生涯学習を同一の課が担っており、生涯学習と市民協働とは切り離せない関係にあるという考え方のもと、このような表記にしているのではないかと。
- 委員長 : 「社会教育」については、市民自治や市民協働の観点から、行政が市民を教育するとは何事かという長い論争があり、松下圭一氏による「社会教育終焉論」などで話題になったテーマ。これにより、社会教育の位置づけが変わったり見直されたりした。例えば公民館がコミュニティセンターと名称を改め、市民自治の拠点とした自治体もあった。松下氏は、社会教育を生涯学習などと名称を変えただけで、中身が改められていないと意味がないと言っている。そういう点で生涯学習と市民協働とを結びつけるという考え方は、誤解をされかねないと思う。少なくとも色分けによる強調をする必要はないと思うが、敢えてこのように記載する意味や背景があるのかどうか。
- 事務局 : 第3期計画からこのような記載をしているが、恐らく、先ほど申し上げたように、生涯学習と市民協働を同一の課で担っていたという背景によるものだと思う。
- 委員長 : 生涯学習は教育委員会の管轄ではないのかどうか。
- 事務局 : 組織の話になってしまうが、かつては教育委員会の管轄であったが、社会教育から生涯学習に係る部分が図書館交流プラザへ移管された。現在は、生涯学習を社会文化部の生涯学習課が、市民協働と自治振興とを市民安全部の市民協働推進課が管轄している。
- 委員長 : 組織のことは承知したが、生涯学習に関して教育委員会は関与していないのかどうか。
- 事務局 : 現在は関与していない。
- 委員長 : では、岡崎市の公民館はどこが所管しているのか。
- 事務局 : 今現在岡崎市では、公民館の位置づけの施設は存在しない。かつては、市民センターが社会教育法上の公民館の位置づけで、教育

委員会の管轄だったが、教育委員会から生涯学習の分野が離れた段階で現在の生涯学習課の管轄となっている。

委員長 : 過去の経緯は承知したが、挿入図上の色による強調は改めたらどうか。

事務局 : 承知した。

委員 : 2点ある。

1点目は、p. 12 以降に調査結果のグラフが示されて視覚的に伝わりやすくなったと思うが、文章の中のグラフ化している箇所を強調すると、読み手にとって伝わりやすいと思うがどうか。

2点目は数字の表記について、半角と全角が混在しているように見受けられるが統一された方がよいと思う。

事務局 : グラフ化している箇所の強調については、検討する。

また、数字については、公文書のルールとしては、1桁の数字は全角、2桁以上は半角としている。ユニバーサルフォントを使用しているため、全角とすると、1桁の数字の場合、余白が無くなってしまうことから、見た目の統一感が無くなっているものと思う。1桁の数字を半角にするなどして、統一できるよう調整する。

委員 : p. 31 事業番号 25「協働可能団体の可視化」について、基本施策 1にも該当すると思うがいかがか。

委員長 : 事業番号 25 はどちらかという発信することよりも、リスト作成が事業の主のようだが。

事務局 : 委員長がおっしゃるとおり、これまで市民活動を協働に繋げる意思がある団体の一覧がなかったことから、可視化できるようにリストを作成する事業を新規として挙げた。どちらかという広報のようなイメージよりは整理するイメージの方が近いかもしれない。

委員長 : 確かに、委員がおっしゃるように、「可視化」というタイトルからは読み取りづらいかもしれない。「協働希望団体リストの作成」などと直接的に記載した方が基本施策 1との差別化を図れるのではないかと思うがいかがか。

事務局 : 承知した。

委員 : レイアウトについて、p. 20 のグラフの上に1行だけ文章があるが、前のページに余白があるので、文章は同じページにまとめてはどうか。

事務局 : 承知した。調整する。

委員 : p. 25 と p. 34 について、通し番号がずれているようなので修正した方がよい。

- 事務局 : 承知した。
- 委員長 : 特に意見はないようなので、以上で良いか。  
事務局には出た意見の反映をお願いします。その後の確認は、事務局と委員長とで行うという流れで良いか。
- 委員 : よい。
- 委員長 : では、これをもってパブリックコメントに諮ることになるのでよろしくをお願いします。  
他に意見や質問があれば何うがいかか。
- 委員 : p. 32 事業番号 29 『町内会等』による交流機会の創出』とは具体的にどのような事業か伺いたい。
- 事務局 : 学区総代会長を対象とした研修会を実施しているが、その中で学区総代会長と中間支援組織とが固まってグループワークを行う場を設けることで交流を図る事業を想定している。
- 委員 : 学区によっては1年で総代会長が交代してしまうので、うまく仕事の引継ぎができないなど、学区ごとに様々な課題を抱えているが、他の学区とも上手く交流して、総代会長が自分の学区と他の学区との違いを知り、地域活動に活かせる機会が増えたら良いと思う。そういう思いもあり、総代会長の研修会を毎年実施している。  
第4期計画案を見ていると、自分が感じている流れと逆らっているような気がするので、コミュニティの再構築といっても難しいという気がしている。  
総代に限らず、PTA や子ども会にも同じようなことが言える。
- 委員 : そういう流れはどんどん加速すると思う。この流れに抗わない限りはどんどん衰退していくと思う。そのため手段のひとつに市民協働があると認識している。自分が汗をかいたことに対して「疲れた」ではなく、「貴重な時間を過ごした。有意義だった。」と思える市民が増えないことにはトレンドとしては、委員がおっしゃる流れになっていくものと思う。そのために、市も市民協働の推進を図っていかうとしているのではないか。  
自分たちで自分たちのコミュニティを守っていかうとすること、やらない限りは上手くいかないことを認識する必要があるし、やらないところは廃っていくというある程度の割り切りも必要だと思う。

- 委員長 : 衰退する地域が発生するのは仕方がないことだが、他の人にも影響が出てしまうので、社会システムをどう作るかというところでこういった議論の場があるものと思っている。
- 岡崎市に関わるようになってきて、岡崎の総代会は充実していると思っているが、その総代会からもこのような課題を聞くと、日本全国が心配になるところだ。
- ご存知とは思いますが、去年の地方自治法の改正で「指定地域共同活動団体制度」が新たに設けられた。外の力に頼らないと地域活動が成立できない地域が出てきたということとも言えると思うが、ぜひ岡崎の総代会には引き続きご尽力いただきたい。
- 委員長 : その他の意見はあるか。
- ないようなので、議事進行の任を終え、事務局にお返しする。

## 7 閉会のことば

－ 会 議 終 了 －